

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表①

(様式1)

(平成31年度(令和元年度)版)

※( )は関連したアンケート項目に対する評価

No. 1

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価		第2回点検・評価				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は90%以上である。	・学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。	A	A	保護者、生徒ともに満足している割合が90%を超えている。今後も生徒が活躍できる学校づくりに努めたい。	A	A	今回も、保護者、生徒ともに満足している割合が90%を超えた。これを維持できるよう充実した教育活動を学校全体で進めたい。	
		② 「総合的な学習の時間」や「探究基礎」(1年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	・課題設定や実証的な情報収集など、探究活動のスキル指導の充実を図る。	B	B	1学期は課題研究の意義やリサーチクエストの設定等が中心であったので、今後実証的な研究を進め、探究力の向上を目指す。	B	B	今年度から実証的な課題研究を開始した。教員も生徒も試行錯誤しながら進めてきたが、来年度に向けてスケジュールや内容の見直しを行いたい。	
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。	・年に3回(4月、7月、10月)、外部講師を招いた「イノベータ講演会」を開催し、意欲の向上を図る。	B	B	さまざまな分野で活躍する講師の話聞き、自分の探究活動に生かせるように指導したい。	B	B	第1回と第2回では、あまり変化が見られない。来年度に向けて、生徒の意欲をより高められるような内容を考えたい。	
		④ Oxbridge研修やその報告会などのグローバル教育を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	・Oxbridge研修参加者の体験をさまざまな機会に共有させるよう努める。国際交流や国内・校外等での研修参加を促すよう努める。	B	C	Oxbridge研修以外にも、グローバル教育を推進するための取組を考えたい。また、主体的に海外長期留学や研修に参加した生徒の声なども紹介したい。	B	B	満足している生徒は1年、2年合わせると80%弱であり、一定の成果は上がっている。一方、満足していない保護者は29%であり、今後は保護者に国際交流の様子がより伝わるよう工夫が必要である。	
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 55分となった授業が工夫されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	・ICTの活用やALの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。	A	A	保護者、生徒ともに満足している割合が90%を超えている。7月に実施した授業アンケートの意見も授業改善に生かせるようにしたい。	A	A	満足している割合は第1回の結果を維持している。今後もICTの活用など授業の工夫を行い、さらに満足する生徒の割合を高めていきたい。	
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	・クラス分けの方法や時期を工夫する。 ・小集団の特性に合った授業内容・指導方法で授業を行う。	A	B	満足している割合は保護者・生徒ともに85%程度で目標達成まであと一歩。さらにメリットを生かした授業を展開する。	A	B	第1回の結果と変化はない。今後も少人数授業・習熟度別授業の在り方について分析を続け、効果を高める改善に取り組む。	
		③ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	・発問内容・方法の工夫により学習意欲の向上をはかる。 ・生徒が発表する場面を意識的に増やす。	B	B	生徒の回答は70%。今後も、授業を工夫するのはもちろん、様々な場面で生徒の主体的な活動を増やす必要がある。	B	B	各授業の工夫を今後も継続する。職員研修等で他校の事例の紹介をするなど、職員への情報提供を行い、授業改善に資するようにする。	
		④ 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科でも実施している。	・授業改善推進委員会を中心に計画を立て、学年及び教科で研究授業、授業研究を実施する。	B	B	各教科の研究授業、授業研究の結果を職員間で共有し、授業改善を推進する。	A	B	計画的に各教科で授業研究を実施し、授業改善を進めることができた。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	・「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もうとした生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	・「土曜AL」の取組を確実に実施し、生徒への効果的の周知を図る。	B	C	土曜ALに参加した生徒や職員の声、通信やClassi等で発信し、出席した生徒が学んだ内容を共有し、意義を伝える。	B	B	年間実施5回のうち、4回までが9月に終了したため、第2回の満足度は下がったと思われる。また、1回も参加していない生徒がいる一方で、参加した生徒の満足度はかなり高い。今後より多くの生徒が土曜ALを活用できるよう、内容、日程等検討したい。
		② 英語や数学などのコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	⑤ 各教科・科目で「探究的な学び」を取り入れた授業を行い、学習内容がより深く理解できたと感じる生徒が80%以上である。	・AL型授業、外部英語検定(GTEC、英検等)受験、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。	B	C	パフォーマンス評価等を生徒にフィードバックし、生徒が自分自身の成長を感じられるような取組を行う。	B	B	第1回、2回ともにあまり変化は見られないが、学年が上がるにつれて生徒の満足度も高くなっていることから、3年間で一定の力をつけることができているといえる。(1年55%、2年67%、3年84%)
		③ 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	・SS科目において教科横断学習や探究活動を行う。 ・各教科・科目の授業において探究のサイクルを回し、学習内容に対する興味・関心の高揚を図る。	B	C	Webページや通信を通して、本校の取組について発信していく必要がある。	B	B	第1回、2回ともにあまり変化は見られないが、学年が上がるにつれて生徒の満足度も高くなっていることから、3年間で一定の力をつけることができているといえる。(1年67%、2年76%、3年78%)
		② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。	・オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。 ・学校に軸足を置いた学習が受験勉強の基本であることを理解させるための仕掛けを工夫する。 ・蛟龍館自習室の利用時間延長を図った。	C	B	2・3年生の学習時間が少ない。早朝学習や自習室の利用を促したい。部活動との両立を工夫している3年生の自己評価は高い。	C	C	「(ある程度)確保できている」と答えた生徒は、1・2年生では半数に満たなかった。低学年時の自主学習の奨励を工夫したい。	
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っている。	・学年と生徒指導部とが密接に連携し特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。	A	B	67%の生徒が主体的な学習に取り組んでいると回答している。3年生が部活動引退後はさらに増加すると思われる。学習室の開放については9割超の生徒が評価している。	A	B	取り組んでいると回答した生徒は、3年生が78%(前回73%)に対し、1年生が60%(70%)、2年生が61%(56%)だった。教室での早朝学習も含めて学習への取組を促したい。
			② 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。	・学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。	B	A	生徒指導会議は、授業中に開催できないこともあり、以前に比べ設置回数が増えている。それ以外は今までと変更無く、共有できている。	B	A	情報共有ができていないかに対し、94%の職員が肯定的な意見であるが、生徒指導部についてはやや不十分であると思われ、改善が必要である。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	・学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。	A	—	7月現在で、遅刻者は1日平均4.23人、欠席率は1.0%であるが、長欠者も出始め、今後は心配される。	B	—	12月現在で、遅刻者は1日平均4.4人、欠席率は1.1%であるが、転学者や新たな長欠者も出始め、継続した指導が必要である。
			② 部活動に自主的に参加する生徒が95%以上の生徒が加入している。また、県総体総合3位以上及び関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取り組みと上位進出を促す。	B	A	保護者アンケートでは高い値であるが、生徒指導部が個々に登校時指導等を実施しているものの、学年や特活部との連携は十分ではない。	B	A	生徒職員が一体となってというほどではないものの、個々に高い意識を持って活気のある学校作りを目指して活動していると考えられる。
7 生徒が自主的に活発な活動を行っていますか。		① 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じている生徒が90%以上である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取り組みと上位進出を促す。	A	A	県総体総合3位、関東大会出場4部、全国大会出場体育部3部、学芸部2部、その内、山岳部が全国2位と素晴らしい成果を上げた。前期の実人数部活動加入率が94.8%と目標を若干下回ったが、ほぼ当初の目標を達成できた。	A	A	後期部活動では、関東大会が体育部4部、学芸部3部、全国大会が体育部3部、学芸部1部出場と好成績を収めている。実人数部活動加入率は93.4%であったが、部活動以外で目標を持って生活している生徒が多くいると考えられる。	
		② 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。	・練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れる。	A	B	生徒アンケートでは87%、保護者アンケートでは92%の満足度であった。生徒の目標値が下回った理由として、3年生の充実度がやや低いことがある。	B	B	生徒アンケートでは85%、保護者アンケートでは92%の満足度であった。部活動計画の作成は各部で実施された。その利用が有意義なものとなるようにしたい。	
		③ 定期戦及び文化祭をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	・学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。	B	B	生徒アンケートでは66%、保護者アンケートでは79%の満足度であった。時間確保に加え、生活面の指導を促したい。	B	B	生徒アンケートでは67%、保護者アンケートでは81%の満足度であった。職員会議等で、本校部活動運営方針を共有したい。	
		④ 行事等の活動に対して、生徒自身の自主的・自律的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。	・行事等の活動に対して、生徒自身の自主的・自律的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。	A	A	生徒アンケートでは90%、保護者アンケートでは93%の満足度であった。昨年度の数値を大幅に上回った。文化祭実施年であったためと考える。	A	A	生徒アンケートでは87%、保護者アンケートでは92%の満足度であった。学力の3要素の観点からも学校行事への積極的な関わりを促していきたい。	

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覽表①

(様式1)

羅 針 盤	
評価対象	評価項目
8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80%以上である。
	② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90%以上である。
9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。
	② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。
	③ 大学・企業・研究所研修、キャリア教育講演会、インターンシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。
11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 早朝補習や長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。
	② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。
	③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	① 「前高web page」の内容について、満足している保護者が90%以上である。
	② 学校通信「前高通信」などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90%以上である。
13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。
14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。
	② 自転車事故減少に向けた交通安全教室や諸注意を受け、交通マナー・規則遵守の精神で自転車運転を行っていると感じている生徒が90%以上である。
15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 災害発生時に適切な行動をとることができると自覚している生徒が90%以上である。
VI 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。

方 策
・ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。
・人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織的に行う。
・国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。
・進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。
・これまでの指導のノウハウを継承しながら、さまざまな場面で資料を有効活用する。
・生徒の進路意識・職業意識を高める進路行事を進路指導部と学年が連携して計画・立案し、実施する。
・生徒の実態に応じて作成する年間指導計画に基づいて実施する。
・前年度までの総括をもとに、学習合宿実施の意義に見合った時期・場所・内容等の検討を行う。
・納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供するとともに、同じ志を持つ生徒同士の相互作用をうまく誘導する。
・学校行事等の記事など、新しい情報を頻繁に発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。
・行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発刊を行う。
・PTA・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。PTA新聞作成に当たり、保護者役員の制作活動や情報収集をサポートする。
・交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早朝登校や、大通りを利用しての通学など、事故に遭いにくい通学を促す。
・交通安全教室の形態・指導内容等を高校生に合ったものになるように工夫する。
・毎月安全点検を実施し、施設的に問題の改善に努める。
・他分掌と連携し、AED等の緊急時使用マニュアルを作成する。
・年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた防災マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応をできるようにする。
・保健委員会活動（保健だより等）により、感染症・健康に関する情報を発信する。

(平成31年度(令和元年度)版)

※( )は関連したアンケート項目に対する評価

No. 2

第1回点検・評価			第2回点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
C	C	生徒アンケートでは82%が肯定的であったが、保護者67%、職員47%と低い値で、今後の検討が必要である。	B	C	生徒アンケートでは93%、保護者92%が肯定的であったが、職員66%と低い値で、相互連携を考慮した継続的な指導が必要である。
A	A	アンケートでは保護者90%、生徒86%、職員93%といずれも高い数値で、係職員の努力が認められている。	A	A	アンケートでは保護者89%、生徒83%、職員91%といずれも高い数値であるので、今後もさらに全職員がいじめ防止に向け行動できるようにしていきたい。
B	C	肯定的評価が38%程度で、やや上向きだが、もっと読書をするべきと考える生徒が多い。現段階で貸出冊数は1,600冊余りであり、貸出冊数の増加の方策を検討する必要がある。(昨年度同時期の貸出冊数は約3,500冊)	C	C	肯定的評価が40%程度で、前回よりやや上昇したが、現段階で貸出冊数は2,655冊余りであり(昨年度同時期の貸出冊数は4,875冊)、貸出冊数の増加の方策(国語の時間の図書館利用、読書レポートの復活)により上昇している。
A	A	年間10回以上を計画している。参考になると回答した生徒は84%であり、今後も計画に従って実施していく。	A	A	保護者(88%)、生徒(87%)、職員(91%)ともに評価する声が大半を占めている。進路指導に関してLHRが有効に活用されている。
A	A	87%の生徒が役に立つと回答しており概ね良好である。今後もLHRや面談で活用していきたい。	A	A	88%の生徒が「役に立っている」と回答している一方、保護者の満足度が低い(71%)、メールやWebを活用して周知したい。
A	A	全体では87%の生徒が評価している。3年間の指導計画の中で、より有意義で系統的な流れを模索していきたい。	A	A	生徒全体では89%が評価している。保護者(95%)や職員(89%)の評価も高く、キャリア教育に関する行事の目的意識が共有できていると言える。
A	A	87%の職員、82%の生徒が肯定的な評価をしており、一定の効果はあがっていると言える。	B	B	早朝・放課後の補習を評価する生徒が85%、長期休業中補習を評価する生徒が79%だった。授業日に実施する補習の方が評価が高い。
A	A	実施後の参加生徒対象のアンケートでは、今後の学習に役立つ回答した生徒がどの学年でも9割を超えている。	A	A	学校評価アンケートでは「(概ね)役に立っている」と答えた生徒は79%にとどまっているが、参加生徒へのアンケートでは9割以上の評価を得ている。有意義な行事だと言える。
—	—	志望校選択の参考となるよう、さまざまな情報を提供していきたい。3年生では志望校別の困り込み指導を学期に1回程度実施している。	—	—	二者面談を中心としたいいねいな個別指導が定着している。志望校検討会の運営も円滑になり、時間短縮につながった。
A	B	Webページが「充実している」「概ね充実している」があわせて88%であった。更新を頻繁に行う、内容を見直すなど改善していきたい。	B	B	アンケートでは「充実している」「概ね充実している」が86%と下がった。内容等の変更はしているが、係以外の書き込みも進めたい。
A	A	アンケートの評価では目標を達成することができた。1学期の発行が少なかったため、年間4号発刊を目標にしたい。	A	A	アンケートの評価では「満足している」、「概ね満足している」が90%と目標を達成できた。年間4号は発刊できそうである。
A	—	PTA・母の会役員との協力体制のもと、充実した講演会が行われた。PTA新聞第72号が予定通り発刊された。また、PTA総会出席率は総会48%、学年別懇談会68%だった。	A	—	PTA・母の会役員との連絡を密にして、学年懇談会・保護者進路講演会を実施することができた。また、PTA新聞73号がPTA役員主導で刊行された。
C	—	交通事故の届け出が8月末で13件になり、目標達成は難しい状況である。	C	—	交通事故の届け出が12月末で19件になり、目標(年間15件以内)達成は難しい状況である。
B	A	生徒アンケートでは、目標をクリアしているが、実際の状況は良好とはいえないと考えている。	B	A	毎年同様な指導内容になりがちであるが、外部からの資料や情報を取り入れて、工夫していく必要がある。
A	A	安全点検は滞りなく実施できており、必要な手立ちは講じられている。保健部の協力を得て8月に緊急時対応マニュアルが完成し、必要部数を該当職員に配布した。防災避難訓練では、全員が無事に避難できた。河川氾濫時の避難マニュアルに関しても、8月中旬に完成版を前橋市へ送付済みである。	A	A	生徒・保護者による学校評価の目標値を達成できた。施設設備の点検を通して、生徒の学校生活における安全面への配慮もできていると考える。また、頻発する自然災害への備えとしての各種避難マニュアルや避難訓練も有効に実施できた。今後は前橋市との連携をさらに深め、訓練や講話など、さらに改善していきたい。
A	A	生徒の82%、保護者の86%が、自分自身の健康面で安心感があると回答している。引き続き、保健だよりなどを利用して、健康に関する必要な情報を、タイミングよく提供していきたい。	A	A	生徒の84%が、自分自身の健康面で安心感があると回答している。今年度は学校保健委員会で食後の歯磨きの実態を把握し、改善を図る取り組みをした。今後も、生徒の健康状況の把握と改善に努めていきたい。